

1日発覚した富大経済学部長選挙を巡る問題で、遠藤俊郎学長は同学部に候補者2人を再推薦するよう求める根拠として、学部長選挙規則の「第2条第5項」を挙げた。この規則の運用を巡り、関係者から「学長側の勝手な解釈につながることを懸念していたが、的中した」との指摘が出ている。

勝手な解釈 懸念が的中



遠藤俊郎学長

関係者によると、経済学部が候補2人を遠藤学長に推薦したのに対し、学長が候補の出し直しを求め、教授会が反発している。

学長が通知で挙げた「第2条第5項」では「学長は、学部長候補者が学部長として適任でない」と判断した場合は、当該学部教授会に再度学部長候補者の推薦を求める」と定められている。

再推薦を求める学長通知を受けて開かれた31日の経済学部臨時教授会で、教員から「この制度ができる時、学内で危惧が出されたが、学長は『候補を2〜3人出してもらえば一番上の人を選ぶ』と言った。だが、やっていることは全然違

う」との指摘が出た。

経済学部関係者によると、遠藤学長が「適任である」とまでは判断できなかった」とした候補者は「批判すべきことは批判するタイプ」という。

この候補者は2016年に遠藤学長の申請を受けて行われた特命教授の公募に「特定の人物ありきではないか」と疑問の声が出た際も、学長に批判的だったとされる。

遠藤学長が「適任ではない」とした候補は、学長や理事の大学運営に批判的だったという。「学長はイエスマンで周囲を固めようとしている」と経済学部関係者は批判する。

遠藤学長が候補の再推薦を求めた理由として、通知では「適任ではない」とされた候補について「所信を確認する限り、選挙の基準を満たしていない」と記されていた。「適任である」とまでは判断できなかった」とされた候補

遠藤学長「第2条第5項が根拠」

については「中長期的な目標に向かって具体的な構想を示し、強いリーダーシップを持って、計画を実現できる人という基準を満たしていると確認できなかった」との内容だったという。

これに対し、臨時教授会では基準が曖昧だと批判が出され、「計画を実現できる、できない」となぜ言えるのか。具体的に説明いただかないと、われわれには全く分からない」と恣意的判断への懸念が相次いだという。

臨時教授会の中村和之現経済学部長の説明によると、遠藤学長は、候補者1人が不適任では複数候補からの選択ができないとして「もう1人候補を出してほしい」と依頼してきたとされる。

ただ、学部長選挙規則にも「1人候補を出す」ことを認める規定はなく、学部内では「規則違反」「規則にのっとっていないことを認めるわけにはいかない」との声も出ている。

近年の大学改革で「学長のリーダーシップ確立」が掲げられる中、学内からは「リーダーシップとやりたい放題は異なる」との意見も聞かせる。

(大学取材班)